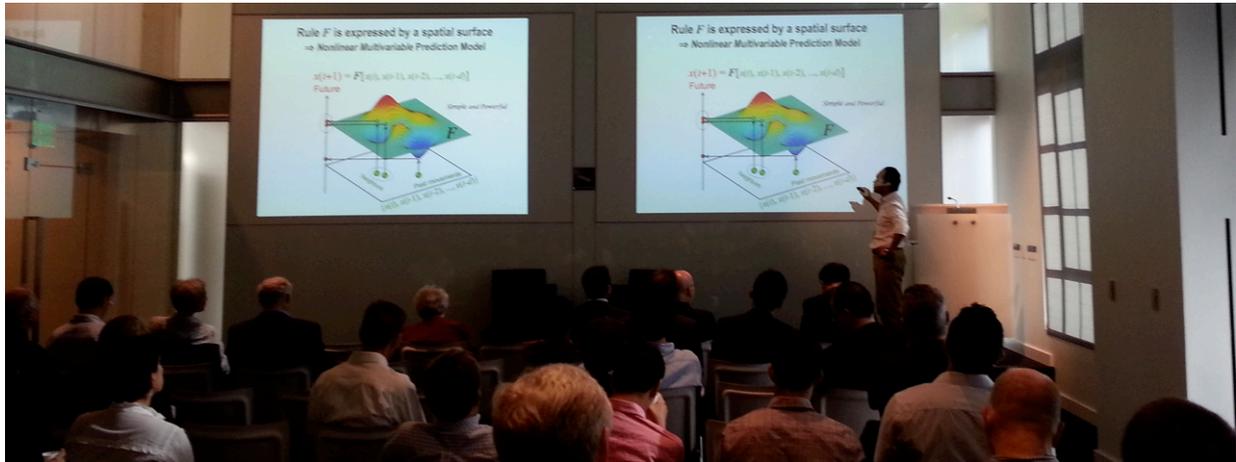


IFTA サンフランシスコ大会の感想 (発表者の視点より)

茨城大学工学部 知能システム工学科
准教授 鈴木智也



1. はじめに

10月9～11日の本大会の一環として、8日にBloomberg支社にてInternational Pre-Conference Seminar (<http://conference.ifta.org/2013/schedule/>)が開催され、Speakerとして45分間の講演させて頂きました。初日の午前(トラブルにつき発表順が変更)にもかかわらず、100人程度の座席は十分に埋まっていたと記憶しています。

本感想では、おもに発表者として思ったこと・準備したことをざっくりばらんにまとめます。(特にIFTA2015東京大会の)Speakerとして御興味をお持ちの方々にとって、ご参考になれば幸いです。私は仕事柄、度々海外にて研究発表を行っていますが、英語が得意という訳ではありません。しかし英語発表は好きです。終わった後の爽快感はもちろんです、発表練習にも楽しみがあります。

2. 本番までの記録

[6月] Speakerのお誘いを受ける。昨年度のシンガポール大会を思いだしつつ、講演内容を妄想し始める。

[7月] 毎月講演していたNTAAセミナー(統計学&複雑系)をお休みして、IFTA大会の準備に充てる。

[8月] 講演内容の反応を確かめるために、NTAAセミナーで「日本語版」を実演。

【セミナー動画】 <http://www.ejuku.net/~ntaa/containts/130826/movie.html>

「複雑系カオス理論とテクニカル分析(最終話)」～新★テクニカル指標を作ろう!～

[9月] 日本語版を英訳して、講演スライドを作成し始める。飛行機とホテルを手配する。



[出発 10 日前] 講演スライド&台本を完成. ひとまず 70%の完成度を目指す.

- ・その後 3 日程度で, 台本を見なくてもプレゼンできるようにする.
- ・喋りにくい, 分かりにくいセリフは, 発表練習を通じて修正していく.
- ・講演時間を意識しつつ, 無駄なセリフをカットする.
- ・「まあーなんとかなるだろう」と思えるレベルに到達したら, 後は楽しく練習できる.
- ・講演スライドが完成したら, IFTA 大会事務局に送る. (本番は手ぶらで良い)

[完成スライドと台本] http://tsuzuki.ise.ibaraki.ac.jp/TS_lab/IFTA2013_Eng.html

[出発 3 日前]

- ・1 日 2 回を目安に発表練習. 本番さながらプロジェクターを使うと楽しい. 聴講者をイメージし, 感情移入しながら「演劇」する.
- ・そろそろ発表練習がうんざりし始めるので, 質疑応答の対策を考える. それなりに発表練習をしていれば, 聴講者が聞きそうなことを何となく想像できる.

[現地到着: 発表 2 日前]

- ・まずは SF を満喫. 朝から夜まで街を散策する. 現地のムードと 99%外国人の環境に慣れる.



- ・しかし寝る前には, 感覚が鈍らないように発表練習.

[発表前日]

- ・本番に備えて, 早く寝る.

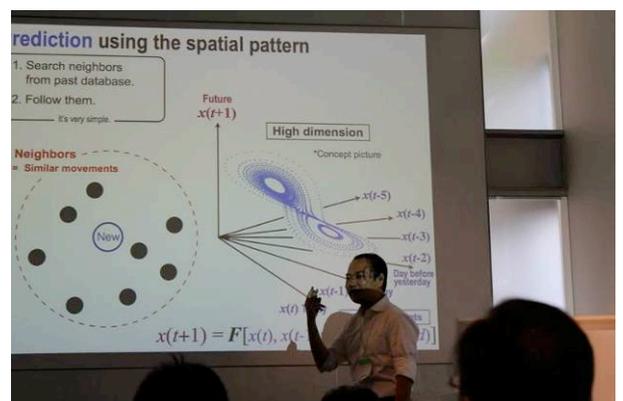
[発表当日]

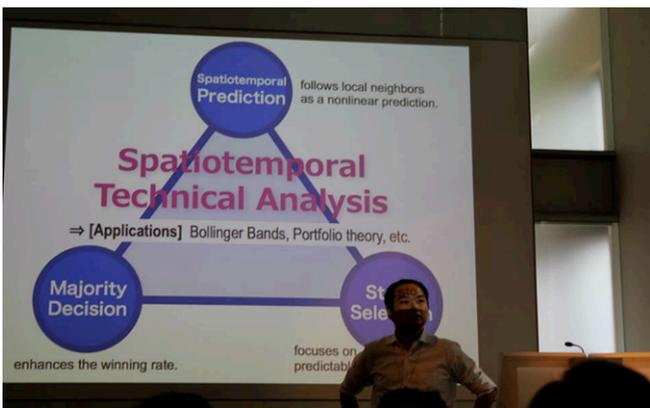
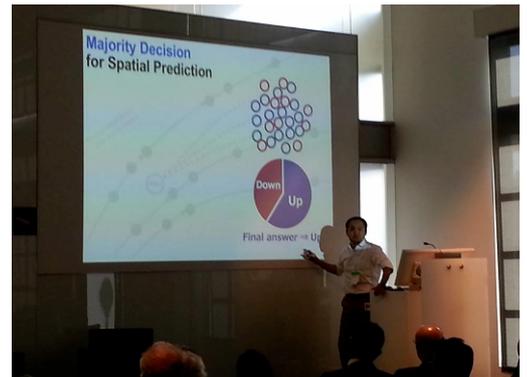
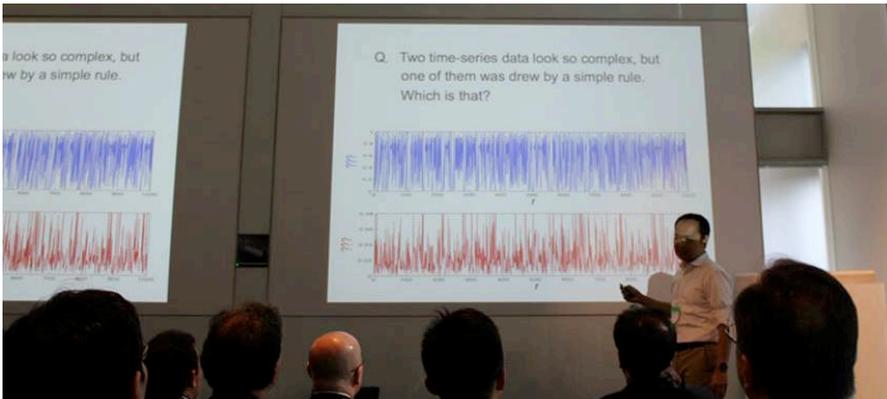
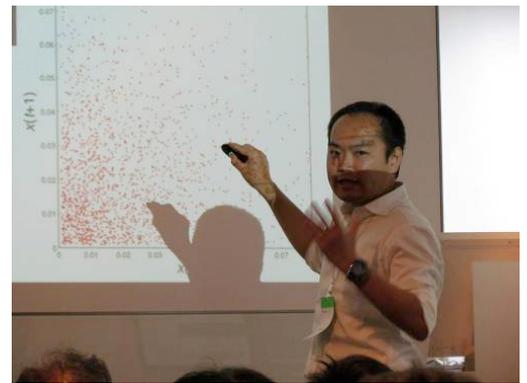
これまでの発表練習で満足していれば, 会場の雰囲気に飲まれることはありません. 会場に入ると関係者数名を挨拶がてら歓談しますが, (私の場合)完璧に英会話できる訳ではありません. しかし, 「まあーやることはやるし」と開き直れます. これが発表練習の最大の恩恵でしょう.

↓とか言いながら, 発表直前はそれなりに不安そう...



↓発表中は非常に楽しかったです.





3. 英語発表でも心配ご無用！

発表したいコンテンツがあるのに、英語だからといって躊躇している方がいれば、ご安心ください！当研究室の学生でも、堂々と楽しそうに英語発表しています。十分に上手いとは言えないかも知れませんが、崩壊的な TOEIC の得点から考えると、英語発表は「準備で何とかなる」分野だと言えるでしょう。ご参考までに、彼らの様子を下記サイトで紹介しています。

【学生による英語発表】 http://tsuzuki.ise.ibaraki.ac.jp/TS_lab/others_Eng.html

ぜひ多くの NTAA 会員の皆様に、IFTA 大会についてご興味を持って頂けますと幸いです。

4. 発表後

・発表直後より反響があり、スライドを送って欲しいと頼まれました。大会通じてお話させて頂いた方々を含め、以下のメールをお送りしました。（ご参考まで）

Dear IFTA friends

Hello, I'm Tomoya Suzuki who was a speaker of the Bloomberg's Pre-Conference Seminar at IFTA2013 conference in San Francisco. I'd like to send the detail of my presentation. This E-mail is sent to all of you who exchanged your business card with me or asked me to send my presentation.

The file size is about 5MB and so please download it from the following website:

<http://tsuzuki.ise.ibaraki.ac.jp/kougi/ntaa/IFTA2013.pdf>

ID: *****

Pass: *****

Then, for its explanation, I made a Web site that shows the presentation with my script. Please see the following Web site:

http://tsuzuki.ise.ibaraki.ac.jp/TS_lab/IFTA2013_Eng.html

In addition, as well as this presentation, we recently published our portfolio model based on chaos prediction method. The paper title is "Nonlinear portfolio model and its rebalancing strategy." If you are interested in it, please see the article:

https://www.jstage.jst.go.jp/article/nolta/4/4/4_351/article

Moreover, if you have a Facebook account, please be my friend on the Facebook and share with anything about financial markets and technical analysis!

My page is here --> <https://www.facebook.com/suzuki.tomoya>

Finally, I will be able to get a sabbatical leave of my university in two years. So, I'm looking for a host person. If you can hire me, but I don't need to be paid, or if you know good host persons or companies, please inform me. I want to collaborate with world-wide persons to do research about technical analysis.

Best regards,
Tomoya Suzuki



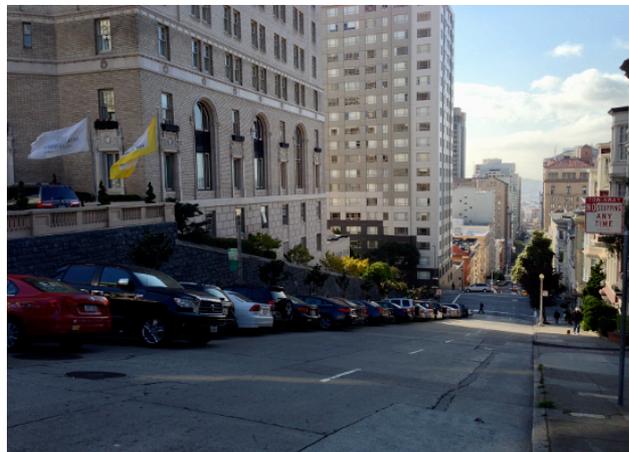
・発表のご褒美に事務局から「ご当地ワイン」を頂きました。
帰国した時は、空瓶のスーベニアでした… →

5. 本大会について

本大会の感想については他の参加者にお任せして、私は簡潔に述べたいと思います。



↑ SF の一番高い場所に位置する
本大会のホテル。



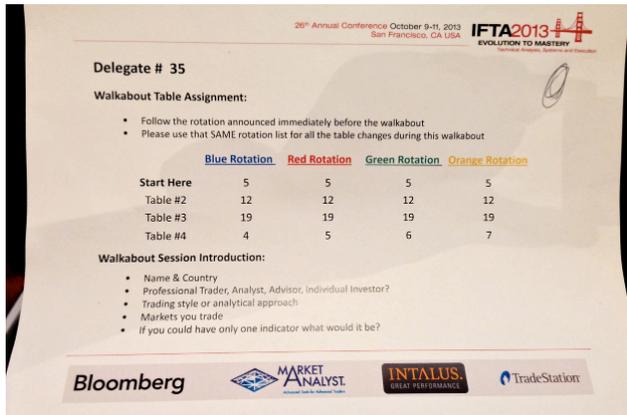
↑ ホテルの側面にある坂。
凍結した時、車は上がるのか？

・ Serious な発表よりも Funny な発表を目指す方が多い。大衆を目前にしたら楽しませることを重視する文化なのかもしれません。前回のシンガポール大会は丁寧な発表が多く、非常に対称的でした（どちらを良いと思うかは、人それぞれだと思います）。

・ カオス理論のブームは去った... と説明している私ですが、基本概念は受け継がれ応用されていることを知りました。私の Spatiotemporal Technical Analysis (時空間テクニカル分析) もそうですが、Bloomberg 社の市場可視化法や、尹熙元氏の御発表でも「ポアンカレ断面」が登場して驚きました。

・ 過去と未来の発表者を想像しながら、発表者のメリットって何だろう？ と考えたりもしました。第一義的にはテクニカル分析発展への奉仕であります。たとえば NTAA のホームページにて歴代の発表者を紹介するページなどがあると、発表者のモチベーションが高まると思います。





←Work About で配布される用紙. 以下の質問が書かれており, 数名と議論しながら懇親を図る.

- Name & Country
- Professional Trader, Analyst, Individual Investor?
- Trading style or analytical approach
- Markets you trade
- If you could have only one indicator what would it be?

・テクニカル分析の妥当性について参加者に質問してみました. すると書籍「Evidence Based Technical Analysis」が良いと紹介してもらいました. 帰国後に調べたら和訳書「テクニカル分析の迷信」の原著であり, 既に所持していました. 統計分析による検証実験を紹介した良書です. しかしまぁーなんてネガティブな邦題に転じたのでしょうか? これが日本の現状でしょうか. しかしその分, 私の研究心がくすぐられ, もっと Evidence Based でテクニカル分析の妥当性を示せたら面白い! と考えるようになりました. そして勝手ながら, この役目を引き受けさせていただきます!



以上, 主に発表者サイドから感想を述べました. ご参考になりますと幸いです. そして次年度のロンドン大会, さらに東京大会へと, IFTA 大会の今後益々の御発展をお祈り申し上げます.